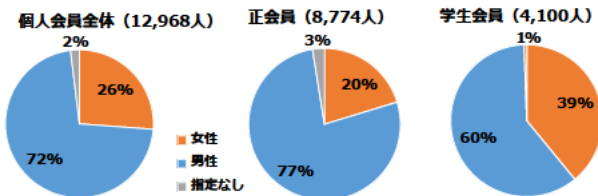


疑問：シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないのでしょうか？

大学や研究機関での男女共同参画を推進するために、学術研究発表の場である学会の大切な役割の一つは、優れた研究に対して、性差などに関係なくより積極的に発表し、評価される機会を創出することである。上記の疑問をもとに、日本分子生物学会キャリアパス委員会は、年会発表者が属する性(属性)について、2009年度(男女共同参画委員会/当時)から継続調査を行っている。

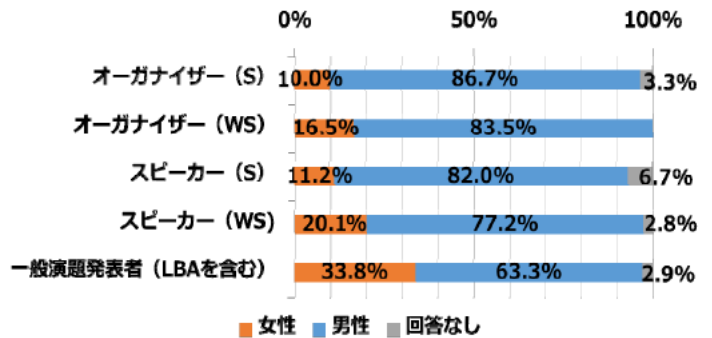
日本分子生物学会会員の男女比率 (2019年9月30日現在)



発表者が決まるプロセスの違い

- **シンポジウム (S)**
 オーガナイザー：年会側が検討・依頼 (他薦)
 スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼 (他薦)
- **ワークショップ (WS)**
 オーガナイザー：応募者 (自薦) の中から選抜される
 スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼 (他薦)
- **一般演題発表者**
 自発的な申し込み (自薦)

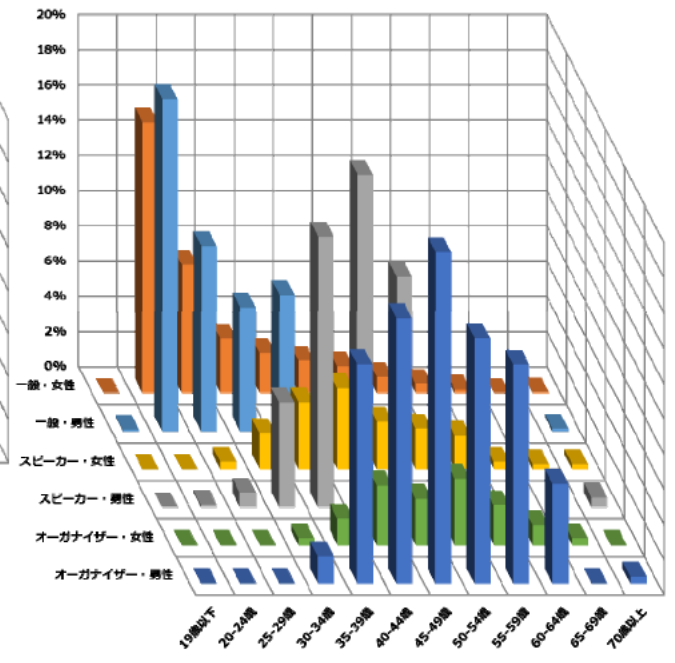
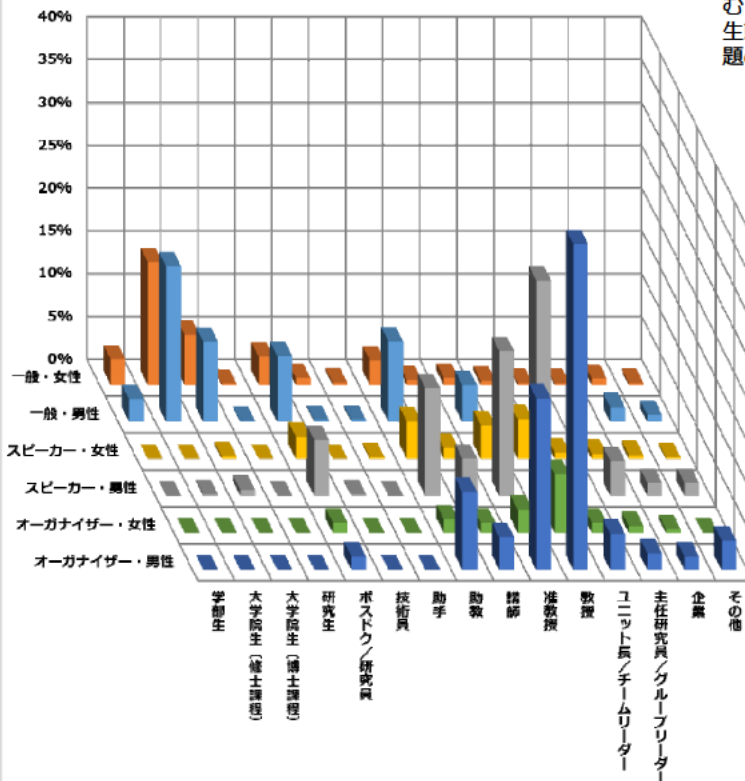
各カテゴリーにおける女性比率の比較



第42回年会における属性調査

今回は4,161名が調査対象となった(のべ人数)。年会の演題登録システム(日本語版・英語版)にアンケート設問を設置(回答は任意)。性別、年齢、所属、職階(身分)について、発表者には投稿時に協力して頂いた(3,895名。Late-Breaking Abstracts投稿分を含む)。一部のオーガナイザー等に関する調査では公開情報や本学会会員データ(学会個人情報保護方針に依拠)なども併用した。なおシンポジウム・ワークショップのスピーカーには非会員の演者を含むと共に、本年会において本学会会員と同じ条件で参加・発表する日本生態学会会員もワークショップのオーガナイザー・スピーカー、一般演題の発表者として含まれている。

職階・年齢とカテゴリーとの関係



2019年会ではワークショップのスピーカー(一般演題からの採択を含む)がほぼ正会員の男女比率と同等となった。なお一般発表については2009年の調査開始以来最も高い女性比率であった。さらに学生会員の一般発表者(学部生・大学院生)のみに着目すると、女性比率は約43%となり、学生会員における女性比率(39%)を上回っている。他方、近年の属性調査結果まとめに対しては「(属性調査の基準になっている)『会員の男女比率』が、学生会員では40%近いが正会員では20%に減ってしまうことにも注目すべきだと思う」との感想が複数寄せられている。研究発表の場においては、性差にかかわらず研究者としてのビジビリティ(可視性)を高めることでその後の研究機会・キャリア獲得などに結び付けることが期待される。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーやスピーカーの多くは正会員であることから、その男女比率が学会員における男女比率との近似値になることが望ましい。